

JIS 青銅合金 鑄造用地金

JIS H2203
日本工業規格表示工場
製造元

ミカゲ金属工業(株)

三重県安芸郡安濃町字日暮2222-2
電話 059-268-2206(代)
FAX 059-268-1949

販売元 ミカゲ金属株式会社

大阪本部
大阪市中央区博労町3-6-7 三都ビル2階
電話 06-6244-3115(代)
FAX 06-6244-3116
東大阪倉庫
東大阪市長堂3-11-20
電話 06-6782-3115(代)
FAX 06-6782-3143

並銅・下銅 真鍮ドライ粉 アルミ・ステンレス

現金買入れ

新賀金属

八尾市太田新町7丁目24

電話 072-949-9750

FAX 072-949-9462

日刊メタルレポート

株式会社 日刊金属新聞社

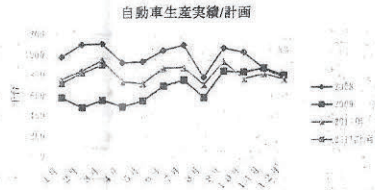
発行人 小林恒甫

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話 (076) 444-6836

購読料 半年44,100円(前納) 3ヵ月22,050円

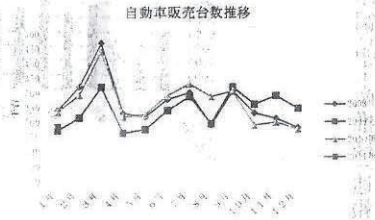
◆自動車生産台数			
	10月	11月	12月
生産台数	75万1620台	80万2009台	74万7947台
前月比	-18.7%	+6.7%	-6.7%
前年同期	-1.1%	+4.8%	-8.4%
◆自動車販売台数			
	11月	12月	1月
販売台数	20万3246台	17万9606台	18万7154台
前月比	+5.2%	-11.6%	+4.2%
前年同期	+19.1%	-14.6%	+5.1%
◆計画台数			
	1月	2月	3月
計画台数	71万8400台	81万8300台	89万8100台
前月比	-6.2%	+13.9%	+9.8%

自動車生産台数推移



出典 日本自動車工業会

自動車販売台数推移



出典 日本自動車販売協会連合会

【前月の経済指標】
◆自動車生産台数 日本自動車工業会によると自動車生産台数は前月比六・七%減の七十四万七、九四七台であった。
◆自動車販売台数 日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除)は四・二%増の一八万七、一五四台。
◆計画台数 一月発表の三ヵ月自動車生産計画は二四三万五千台(前年比四・二%減)であった。(二面へ続く)



橋本健一郎氏

輸出はスクランプが増加 輸入は電気銅が四四・八%減

橋本金属 橋本健一郎氏リポート①

【概況】一月前半、年明けから三日間連続でNYダウが上昇したこと、さらに全米企業雇用レポートの雇用結果が予想をはるかに上回る(三倍)結果だったことを好感、中国人民銀行預金準備率が〇・五%引き上げられるも、九、六三三ドル(セツル)と好調な前半締めとなった。後半、二〇一〇年の中国GDPが一〇・三%と高成長だったことから金融引き締め懸念が台頭。さらに予想外のインドの利上げが重なり、九、三〇〇ドル台まで大幅下落する場面はあるも、中国人民銀行が「今の政策でのインフレ抑え込みは可能」とのコメントによる引き締め懸念の後退や、米新設住宅着工数が一七・五%増と大幅上昇したこと、さらにユーロ圏の消費者物価指数の上昇、十二月の米国内個人消費の予想を上回る上昇を好感、二月一日現在、九、七二〇ドル(セツル)、建値は八五万円のスタートとなった。

メーカーの買い控えなお継続へ

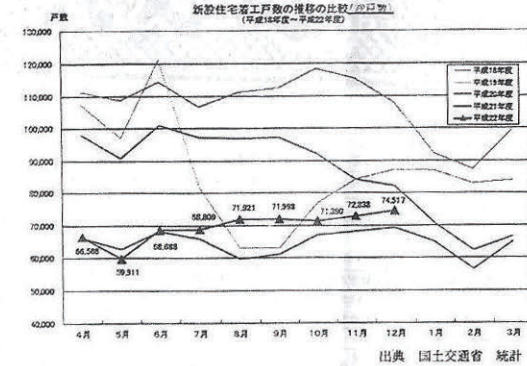
中国バイヤーも購入を抑制 高値警戒

(二面より続く)

◆新設住宅着工戸数 国土交通省によると
新設住宅着工戸数は前月比二・三%増の七万四、五一七戸であった。

	10月	11月	12月
日本新設住宅着工数	7万1390戸	7万2838戸	7万4517戸
前月比	-0.8%	+2%	+2.3%
前年同期	+9.7%	-4.5%	+9.3%

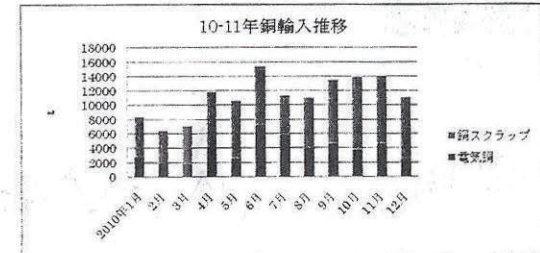
新設住宅着工件数推移



【前月の国内指標】
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前月比六・六%減の六万八、八二〇t(前年同期三・七%減)。

	10月	11月	12月
輸入			
電気銅	3759 t	4600 t	2537 t
前月比	-18.1%	+22.4%	-44.8%
スクラップ	10107 t	9354 t	8509 t
前月比	+14.3%	-7.5%	-9%

輸入推移

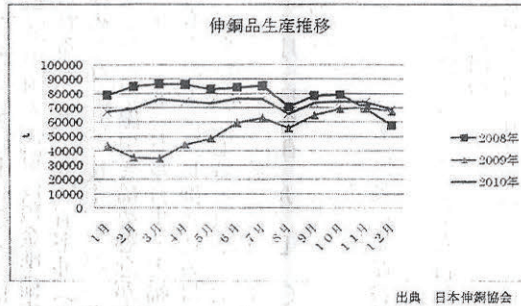
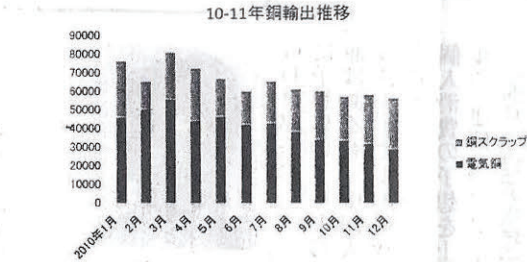


◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前月比で電気銅が九%減の二万八、七六一t、スクラップが三・三%増の二万七、三六二t。

輸出	10月	11月	12月
電気銅	3万3294 t	3万1612 t	2万8761 t
前月比	-1.65%	-5.1%	-9%
スクラップ	2万3677 t	2万6494 t	2万7362 t
前月比	-9%	+11.9%	+3.3%

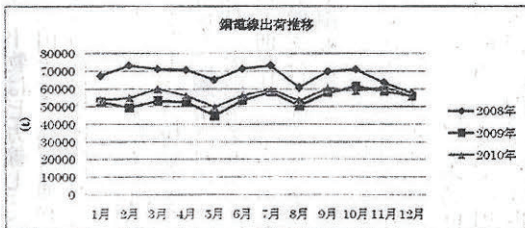
輸出推移



日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前月比七・四%減の五万六、五〇〇tであった(前年同期四・九%減)。(六面に続く)

◇KLT M すぐ相場
二日 三〇・〇五〇
米ドル
七五 トン

輸入は電気銅が四四・八%減の二、五三七t。スクラップが九%減の八、五〇九t。



出典 日本電線工業会

【二面より続く】

【見通し】

伸銅品生産は前月比六・六%減、前年同期の三・七%減から下落。
自動車生産は前月比六・七%減の七四万台、前年同期の八・四%減からは減少幅が縮小。
一月の国内自動車販売は、一八万七、一五四台(前月比四・二%増)と統計以来の最低レベルを推移しているものの、昨年同期の伸び率(五・一%増)とほぼ変わらず補助金切れによる急減予測は回避した形。
銅電線出荷量は前月比七・四%減と前年同期比四・九%減から悪化。

中国製造業PMI、二カ月連続下落

インフレ圧力は一段と高まる

中国物流購買連合会が一日発表した一月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は五二・九%と、前月比一・〇ポイント下落した。下落は二カ月連続。
仕入れ価格指数は六九・三%と、同二・六ポイント上昇。景気の減速感がやや強まる一方、インフレ圧力は一段と高まったことが裏付けられた形で、当局は難しい政策判断を迫られそう。

景気の拡大、縮小を判断する境目の五〇は二三月月連続で上回った。一項目の構成指数のうち、仕入れ価格のほか仕入れ量、輸入、原材料在庫の各指数は上昇。その他は下落した。
生産指数は二・二ポイントの下落。下落幅は前月から一・二ポイント拡大し、生産の減速傾向が浮き彫りになった。受注残指数は

新設住宅着工数は前月比二・三%増の七万四千戸台と上昇。前年同期の九・三%増からは依然伸び悩み
輸出入に関してはLMEが九、〇〇〇ドルを超える上昇トレンドの中、中国バイヤーの高値警戒感が台頭し購入を抑制、そして輸出分が国内へ回帰したため輸出減・輸入減となった。

銅原料需要に関してメーカーは前月に続き一月中も建値八二、八四万円、LME九、五〇〇ドルと高値圏推移による売り込みが殺到、高値警戒感から当用買いに徹し、在庫は潤沢。

米中経済の好調や国内二番底懸念回避を受けて世界需要増加を予測するも、現在中国においては旧正月により高いストップ。欧米日については新年度の計画待ちから動けず、足元在庫の潤沢感や高値警戒感からメーカーは買い止めが続く。

銅価格は銅建値ベースの銅・合金スクラップはあいかわらずの鉱石不足による供給懸念や、米国の金融緩和、旧正月明けによる中国買い気の復活を見越して投機資金が入りやすい状況にあり上昇が予測されるものの、三月の全人代が第一二次五カ年計画の初年度に当たるため、景気対策や利上げを見極めたいとの思惑からLMEに関しては下値九、三〇〇ドル、上値九、九五〇ドル。銅・銅合金スクラップに関しては銅建値で八二、八七万円程度と予測している。

四・二ポイントの大幅下落

このほか、従業員指数は二・五ポイント、新規輸出受注指数は二・八ポイント、それぞれ下落した。輸入指数は二・六ポイントの上昇。

アナリストの張立群氏は「PMIが二カ月連続で下落したことで、最近の経済回復基調がまだ不安定であることが裏付けられた。今後も減速する可能性が潜んでいる」と分析。「新規輸出指数が下落する一方、仕入れ価格指数は上昇しており、企業が直面する困難は比較的大きい。景気は依然、調整局面にあり、先行きはまだ不透明だ」との懸念を示した。

一方、同連合会は在庫調整が進展したことから、今後は在庫補填需要が増え、生産が拡大する可能性があるとの見方も示している。